

オーストラリア：モナッシュ大学 English Language Centre 夏期英語研修プログラム

研修期間 8月26日出発、9月22日帰国予定

(授業期間のみ) 工学系：8月27日～9月21日

オーストラリア研究：8月30日～9月21日

(注：合同渡航の場合、日本の出発日を前倒しすることがあります。)

催行人数なし

モナッシュ大学は、オーストラリアのトップ8大学中最有力校の一つで、主なキャンパスはメルボルンにあり、高い研究能力と教育で定評があります。ここの英語学校での英語研修プログラムは、現地オーストラリア人家庭でホーム・ステイをしながらおよそ一か月間、English Language Instituteのプログラムを受講するものになります。メルボルンは、世界でも一番住みやすい街として知られおり、イギリス系の移民が多い街であることから、シドニーと比較すると、しっとりとした雰囲気が漂う素敵な街です。

週3回はダウンタウンキャンパスで通常のアカデミック英語を、週2回の特別クラスでは、クレイトンキャンパスにて、工学系、あるいはオーストラリア研究の特別クラスに入ります。工学系特別クラスは、工学系の講義を聴き理解する訓練、地元企業訪問、モナッシュ大学工学部訪問など、オーストラリア研究特別クラスでは、オーストラリア研究に関連する題材をもとに英語学習スキルを向上させ、併せてフィールドトリップなどを体験するように設計されています。どちらのコースも、最後のオーラル・プレゼンテーションで自分の課題を発表し、これが最終評価につながります。尚、工学系英語は、大阪大学との共同プログラム、オーストラリア研究の方は千葉大学との共同プログラムとなります。通常クラスでは、様々な国からの留学生と知り合いになるチャンスです。

ホーム・ステイは、オーストラリアでも最も優れたマネジメントによって運営されています。英語の授業もホーム・ステイも、他のオーストラリアの大学と異なり、外部委託ではなく大学独自で責任をもって運営されており、非常に安心できるプログラムとなっています。英語を勉強しながら異文化に触れ、そして良い意味での競争相手を見つけ、切磋琢磨するには、非常に良い機会となるでしょう。参加可能学部・研究科：制限しません。ただし、プログラム性質上、学部の低学年生に推奨します。理・工・農学部生、及び自然科学研究科大学院生は、4単位取得可能ですが、研修成績や参加状況によっては不合格などの不利な扱いを受けることがあります。アメリカ・イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校プログラムとの選択に迷っている学生には、個別に相談に乗ります。参加にあたって必要とする英語能力：特に制限しません。クラス分けによって対応できます。

費用 (研修期間中の授業料及びホーム・ステイ料金のみ)：

工学系：3,281 豪ドル(見込み)

オーストラリア研究：2,835 豪ドル (見込み)

注：ホーム・ステイ料金には、ホーム・ステイ期間中、ホストファミリーから提供される一日3食代は

含まれています。但し、外食費用は含まれません。

この他に、飛行機代や現地で通学にかかる交通費、研修期間に入る前に前泊する必要がある場合宿泊費、海外旅行保険（必須：保障最低基準指定）、格安レンタル携帯電話（必須：本体ではなく SIM カードのみの期間レンタルもオプションとしてあります）その他諸費用がかかります。メルボルンは、世界でも一番住みやすい街とされていますが、物価はやや高めですので、55 万円程度の予算を見込んでください。

比較的安全な街ですが、万一の場合に備えてリスク管理などの事前指導を出発前に開催しますので、それは必ず受講してください。受講しない場合は、参加を取り消す場合もあります。また、出発前後に、国際センター及び自然科学研究科主催の TOEFL (ITP) を可能な限り受験することを推奨します。